

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 4月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3093500015		
法人名	株式会社 なごみ		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	広島県山県郡安芸太田町大字加計5193番地 (電話) 0826-0330		
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493500015-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3493500015-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年3月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・食事は地場産の野菜を使用した、当ホーム職員の手作り。地場産の野菜は当ホームの畑で出来た物や、スタッフの持ち込みや、近所の方の差し入れ等を利用している。こんにゃく、味噌、漬物はホームでスタッフが手作りしている。</li><li>・毎日午前中にラジオ体操をし、天候の許す限りは季節を問わず、1時間位かけて公園まで散歩に出かける。お茶と飴を持参し、公園でグランドゴルフをし、散歩の道中にごみ袋を持って、沿道のごみを拾っている。</li><li>・毎日の掃除の徹底(床の拭き掃除は利用者様も一緒に)、毎日午後全員入浴をしてもらう。</li><li>・地域でのコンサートや行事、神楽等に出かけて交流を図っている。</li><li>・前年度より、毎食前の口腔体操を行い、誤嚥予防をしている。毎食後の口腔ケア時には、舌もクルリーナブラシで洗ってもらっている。</li></ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

家庭的な環境の下で日常生活上の世話や機能訓練を行う事で利用者が持っている能力に応じて自立した生活が出来るように支援する為、美味しい食事を作り、清潔に務め、地域とも交流しながら安心して健康で暮らして頂いている。その裏打ちとして地元産の野菜を職員と利用者さん共々手作りで食膳に供している。半貯蔵のコンニャク・味噌・漬物は味も自慢の品である。朝、普通のリズムでラジオ体操をして全員散歩に出ている。雪道も歩く、長年歩いてきた知恵を生かして歩いている。グランドゴルフを全員でしている。慣れた手付きの腕前で、床の拭き掃除はモップでなく手雑巾で丁寧に拭き上げている。食前の口腔体操は大きく開いて閉じて、食後は薬を服用しケアの重点は舌をブラッシングしている。顔を見合わせて笑顔になり、職員も満足そうである。庭が広く、畑の野菜も青々と勢いが良い。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ホームの理念は食堂及び、玄関に掲げて共有している。	1、美味しい食事を作る。2、安心して健康で過ごして頂く。3、清潔に努める。4、地域と交流する。利用者との明るい笑顔で日々を送る理念は玄関とホールに掲げて周知させている。朝礼や引継時に唱和していないが、日々当たり前の如く着実に実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	当ホームの敬老会はボランティアの方をお呼びした。中学校の合同文化祭、神楽の太刀納め、コンサートなど、地元での行事には積極的に参加している。町内社協より、小学校の方4名が職場体験にいられた。キャラバンメイトで地域の講師もしている。	過疎地にホームは当所だけ、入所待機者から催促されている。地域の評判が良いため、2ユニットにしても待機者が出る位である。芸事の出来る方の訪問演奏以外にレクや入湯・花見で遠出もするのでその評判から入所希望が多いと思われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポート研修を受けて、キャラバンメイトに登録し、活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの保健師、地区の民生委員、地域のボランティアの方、利用者様の家族の方など迎えて、昼食を兼ねて行っている。	行政の関係者や民生委員、自治会の幹部の方は欠席しない様代員の出席を必ず求めた方が良く、更に、会議の内容も利用者の動向、職員の動向、地域行事への参加、当所の行実施状況、平時の利用者の状況(健康面・作業面・意向・意欲・特異行動・ヒヤリハットと事例分析留意改善)等を系統的に協議し整理して記録する事を確認している。	過去1年間の記録状況をより系統的に見易い記録にする為に会議の進行を系統的に一つずつ深めた議論を誘発し、良い方向づけを出席者全員で定めた記録を残すようにする話し合いをし、即実行を約束したので、今後は会議録が一読で流れを把握し易くなる事が期待される。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	隔月に行われる地域ケア会議に参加している。協力病院に町の福祉課が隣接しており、相談に行っている。	経営する会社社長も施設長も古くからの町内住人で地域の事・人に精通していて、町行政の担当者を良く認識している。相互に良好な連絡・相談・協力関係が維持されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は防犯と事故防止のため、夜間のみ行い、昼間はしていない。</p>	<p>玄関の夜間施錠の問題以外でも、居室のベッドの置き方から始まって、事細かく事例を挙げて職員全体の協議・研修の機会を度々設けている。他の会議でも関連事項が出たら速やかにそれを取り上げて協議している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>月1回のスタッフ会議にて、何が拘束になるのか話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域ケア会議の参加時に、年度に1回は成年後見制度の勉強会がある。1人利用者様が制度を利用中。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時、契約書、重要事項説明書にて。説明し、分からないこと等あれば説明している。問題行動等がある利用者様の家族とは、蜜に連絡を取り、時には病院受診に付き添っていただき、納得していただけるように説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には家族の方にも参加してもらい、意見提言等を聞いている。その意見を職員で協議して、解決方法を意見交換し、解決している。</p>	<p>家族は最低1ヶ月に1度は来られる。その機会に色々と質疑、打ち合わせができるので殆どそれで収まっている。勿論、重要事項説明書や利用契約書に明記されているので、意見は勿論苦情もそれに従って申し出る事ができる。事業所側は受け止めた内容を全体討議の場で協議し、早期に改善できる体制ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議で、意見等を聞く機会があり、社長、ホーム長、他全スタッフに参加している。	職員の意見や提案は協議の席上で真摯に受け止められ、改善されるべきものは早急に見直されるので、不都合な状態がそのままにされることは無く、意見は的確に受け止められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	畑作り、花作り、料理作り、漬物作り、片付け上手、聞き上手、などスタッフ個人の得意とする事してもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の参加時には、研修手当で、交通費を出して、参加してもらうように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他グループホームとの交流を考えているが、実施には至っていない。同町内にはグループホームはない。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所事前訪問を、自宅や居住されているホームへ本人様に会いに行き、情報を得ている。入所前に本人様や、家族の方に当ホームに見学に来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所申し込み時や、入所事前訪問で、利用者本人様の認知度や趣味など、家族の方が困っていることをお聞きしている。入所初期には家族の方とは、蜜に報告連絡相談をし、介護記録簿に記録している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所申し込みのある方の情報を担当のケアマネに今、入所できる段階かどうか相談している。その後、家族に連絡を取り、入所の連絡を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食器拭き、洗濯畳み干し、雑巾がけ、こんにゃく作り、等お手伝いできることはしてもらっている。していただいたときには、感謝の言葉を述べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	年2回家族会開催。家族の方で支援できることはしてもらっている。病院受診の付き添い、自宅への外出の支援。面会時間は設けず、いつでも面会してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様が居られた地域での敬老会や、食事会、日帰り旅行、など参加してもらっている。利用者様の自宅近くの方々に、ホームでの催しに参加してもらっている。	当事業所を利用する前に居住していた地域の方々との交流はいまだに続き、馴染の関係は維持できている。中にはホームの一員である以上に地域の一員として重きをなしている利用者もいる。関係は途切れていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の椅子の背に、名前を貼り、トラブルが少ない方同士で座ってもらう様にしている。トラブル時には仲介に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	病院へ入院された方にはお見舞いをして、家族の相談にも応じている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各利用者様の食事の嫌いなものを把握して、冷蔵庫にメモをしておき、スタッフ間で共有している。午前中散歩が困難な方が午後散歩に出たいとの希望があれば、できるだけスタッフが付き添いし出している。庭への散歩は自由に行ってもらっている。	当事業所を利用する以前に、今後したい事やして見たい事の夢がアセスメントで、聞き取られてメモしてあるので、実現できるように利用者の心に触れる問い掛けがなされる。その寄り添い方が入居者の自由な振る舞いを受け入れ、嬉しい顔に寄り添って職員も嬉しい思いを得ている。実現させられる介助の醍醐味を得続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	元お花の先生には、玄関と和室にお花をいれていただいている。元洋裁の先生や器用な方には繕い物をしていただいている。お寿司作りやお餅作りも、出来る方にはしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、全員の方に入浴をしてもらっている。しかし拒否された時は、強制はしていない。散歩も毎日しているが、拒否される方は無理強ひせず、見守りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入所時や、家族来所時には意見をお聞きしたり、本人様とも話し合い、常に現状に即したものにして介護計画を実行している。</p>	<p>長期の間に短期のモニターが入って、大きな変化がある前に小さな変化を見逃さずに皆でカンファに関わり、改善し易い内にケアプランを改善し、小さな変化だから利用者に大きな負担を掛けずに適切なケアが引き続き行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録は時間を追って記録し、特に本人様が言われたことをもらさずに、記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>行きつけの美容院や理容院に送迎している。生花は、行きつけだった花屋と一緒に買いに行っている。週2回病院にリハビリに行っている人の送迎をしている。郵便局で預金卸しや、買い物の支援等行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>元居住地の敬老会や1日旅行に参加される方が居られる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>病院受診はH24.10までは、当ホームの看護師が付き添い病院まで行っていたが、H24.10より月1回往診をしてもらえるようになった。その診察内容は記録し、他スタッフには、申し送り簿を通して報告し、家族の方には手紙などで報告している。利用者様の体調が変わられた時には病院受診をしている。</p>	<p>月1回は往診して頂けることになって受診時の診察内容の書き取りが細かく正確に記録し易くなっており、家族への伝達もより詳しく報告できるようになっている。此の事で家族の安心度も増している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	利用者様に変化がある場合は、看護師やホーム長に連絡し相談している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院入院時にはサマリーを作成し、病棟担当者の方へ渡している。協力病院の地域支援室のケアマネや、担当理学療法士と連絡を取り合い、状態の把握等を行い、退院の時期等相談している。退院前には状態把握のため、お見舞いにも行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	入所時には重度化した場合には、当ホームでは対応が困難なことを伝えている。暴力等で対応が困難な場合には家族と話し合い、病院に入院してもらっている。	入居契約時に家族は重度化した場合には退所しなければならないことは承知して契約しているので、そのような事態になった時は病院に入院される事になる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	スタッフには広島市防災センターで行われる急変時対応の研修に参加してもらっている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の避難訓練、年1回の消火訓練通報訓練を行っている。	非常事態になった時、健常な人でも判断を誤る事が多いが、そんな事態を避けるには訓練が大切と年数回の訓練を実施されている。体が覚えた行動を取るまで回数を重ねている。火災だけではなくゲリラ豪雨災害もあるので連なる法人の方や地域の人と一緒に今まで通り安全を求め続けている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人1人個々に応じて言葉掛けを行っている。	人が生きて生活している姿は何人もその尊厳を冒すことはできない尊いものであるとの観点から心ある行為、態度、醸し出す雰囲気、全てに涉ってその奥に心を感じながら支援している。認知症になっても心は生きているとの見方から、厳然と生きている姿に尊厳を感じながら心で接する支援がある。介助時も心に心で応えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	雨の降る日には室内でレクリエーションをしている。その時には利用者様の希望を聞いている。散歩時は公園ばかり行くのではなく、近くのセブンイレブンへ買い物に行ったり、コースを変更している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	散歩には全員行っていただけるように声かけしているが、その日に体調不良等でいられない場合は強制はしてはいない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容師(スタッフの子どもさん)の方に1ヶ月半に1度、ホームでカット染髪してもらっている。行きつけの美容院、理容院を希望される方には、送迎している。洋服は一緒に買い物に行ったり、何枚か店より持ち帰り、本人様の希望に添えるように選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホームの畑より野菜を取ってきてもらったり、野菜の始末を一緒にしてもらったり、茶ワンやお盆拭き、テーブルも拭いてもらったりしている。お寿司作りも出来る方にしてもらった。お餅つきは半数の利用者様が参加された。	運営方針が地産地消を当り前としている。入居者はそうして地域で生きて来た。何といたっても取り立て野菜の美味しさは地域で生きる幸せを深く感得させる。毎日みんなと一緒に生きる喜びを戴く。皆と一緒に準備する事も楽しい。その雰囲気や座って待つ人達をも包んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	配膳台に利用者様各個人の名前を書いた所にお盆の位置を決め、食事量など調整したり、嫌いなものは避けるなどしている。毎食前にはお茶を出している。1日2回のおやつ時と散歩時にはお茶を飲んでもらうようにして、おかわりも出来るように声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員毎食後口腔ケア実施している。入れ歯の人は入れ歯用ブラシで洗ってもらい、舌をクルリーナブラシで磨いてもらっている。毎日夕食後には入れ歯を洗浄剤を入れて消毒。随時歯科医に相談、往診もしてもらっている。H24.9/19地域包括支援センターより、歯科衛生士さん来所利用者様個人個人の口腔内の状態観察してもらう。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	なるべく布パンツを使用し，困難な場合は紙パンツ使用している。排泄誘導の必要な方は，排泄表を作り，時間を考えて誘導している。	基本は認知症になる前に習慣だったことを今も習慣としてもらう介助がなされている。失敗すると，想像以上にその方の人格を傷つけ，気持は落ち込む事になる。それを避けるための声掛けがあり，誘導がある。個室にトイレがあるので誘導時もプライバシーが保てている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事は野菜中心に献立を考え，毎日の散歩にも参加してもらうようにしてもらっている。1日2回あるおやつの中から牛乳を飲んでもらい，お茶は毎食前と1日2回のおやつ時，散歩時には飲んでもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日全員午後入浴してもらっている。拒否される時には，強制せず，後で声かけしたりしている。1番風呂を毎日替わってもらっている。	毎日入浴する事で家族の評判が良い。清潔を保つ運営方針の一環であるが，入浴介助が大変だった家族は安心されている。一番風呂の日替わりは入居者も楽しんでいっしょやる。早い時間に入ったり，遅い時間に入った入浴をそれぞれで楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個室のベッドに個人の布団を持参してもらっている。夕食後に空腹を訴える方にはお茶とお菓子を出したりしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>毎日、スタッフルームの壁に1日分の薬を各個人で分けて入れ、毎食後担当スタッフが利用者様本人に手渡しし、内服を確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>年に4～5回車やマイクロバスを利用し、遠出をしている。春は花見（桜や藤、夏はアジサイ、秋はもみじ狩り、年に1回か2回温泉にも行っている。その際には昼食は外食している。（その際には希望メニューを聞いている。）</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日の午前中、近くの公園に散歩に行っている。地域の1日旅行に参加される方あり。週末は家族に付き添ってもらい、外出される方あり。利用者様の希望にて温泉に行った。</p>	<p>毎日、全員で公園に行く。グランドゴルフもする。職員より上手な人もいる。大橋を渡って対岸の公園に行くこともあり、体がそれに慣れて心身ともに健康が維持されている。職員の車を総動員して皆で温泉に行く等家族が羨むような支援もある。何より坂道を物ともせずの散歩が良い支援となっている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>重度の認知の方（3名）以外はこずかい程度のお金は所持してもらい、希望時には散歩時などに、近くのお店に行き買い物の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話が当ホームにあり、自由に電話してもらっている。手紙のやり取りをされている方もあり、散歩時などポストに投函してもらっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、和室、各個人のお部屋には花を飾っている。各居室には空気脱臭清浄機を配置。各居室と食堂リビングには冷暖房完備、空気洗浄加湿器完備。冬には食堂に床暖房が入る。毎日午前中モップがけと雑巾がけ、トイレと洗面所を掃除している。（雑巾がけは利用者様も一緒にしている。）	アイランドキッチンには四方から手を出して手伝える。吹き抜けがあり、四つの天窓から明るい陽射しが入ってくる。床暖房も温かい。六角形のテーブルは組み替えて横長く一列にして食事もできる。椅子の高さも机の高さも調節できる。食事後は床を雑巾で拭いている。気持ちよく生活できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを3つリビングに置き、誰で座ってもらえるようにしている。和室も腰掛られるように段差がある。食堂には40インチのテレビが配置してあり、いつでも見ていただける。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使っていたダンスや椅子、テレビなど配置。本人のADLに応じてベッドの位置を移動している。	居室に洗面台、トイレ、ベッドが設置され、整理ダンスやチェスト、テレビ何でも持ち込める。必要最小限ですっきりしているのも気持ちが良い。窓も大きく明るい。飾り付けも多くなすっきりしている。戸の開閉も大きな音がしない。各室の空気脱臭清浄機で居心地良く暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な方には歩行器使用してもらっている。廊下や食堂には手すりを設備、床はすべてバリアフリー。食堂に大きな日付の札を掲げている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム なごみの里

作成日 平成25年6月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	過去1年間の記録状況をより系統的に見易い記録にする為に会議の進行を系統的に一つずつ深めた議論を誘発し、良い方向づけを出席者全員で定めた記録を残すようにする話し合いをし、即実行を約束したので、今後は会議録が一読で流れを把握し易くなることが期待される。	運営推進会議においての議事録は、系統別に分け、議論したことの内容がわかるように、記録する。	平成25年3月の運営推進会議録より系統別に項目を分けて記録した。	平成25年3月の運営推進会議録より
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。